

詞 先

shisen (beta version)

詞 先

— 歌詞にまつわる物語

歌 詞 に ま つ

9 「勝手にシンドバッド」の

「アイデンティティ」はどこにある？

阿久悠・桑田佳祐・山口二郎の系譜

30 歌詞 「渚のシンドバッド」

33 歌詞 「ペッパー警部」

35 歌詞 「S・O・S」

38 歌詞 「カルメン'77」

41 歌詞 「ウオントッド」

45 歌詞 「勝手にしやがれ」

49 歌詞 「勝手にシンドバッド」

54 歌詞 「アイデンティティ」

58 歌詞 「UFO（僕らの銀河系）」

65 「アジアの純真」にまつわるエトセトラ。

奥田民生・井上陽水 vs 作詞

84 歌詞 「アジアの純真」

88 歌詞 「これは歌だ」

91 歌詞 「AとB」

94 歌詞 「渚にまつわるエトセトラ」

99 歌詞 「オリエンタル・ダイヤモンド」

103 歌詞 「月ひとしずく」

109	深夜1時、 密かに歌詞は放たれる。
	星野源 RADIPEDIA(ラジベディア)の「今週のリリースリスト」リスト(未完 付き)
115	「今週のリリースリスト」リスト(未完)
122	歌詞 「喝采」
124	歌詞 「ZERO」
128	歌詞 「サンタさん」
138	歌詞 「ラブ・ストーリーは突然に」
142	歌詞 「ストープ」

「勝手にシンドバッド」の
「アイデンティティ」は、
どこにある？

阿久悠／桑田佳祐／山口二郎の系譜

「あのとき俺が駄目だと言ったら、いまのサザンオールスターズはなかった」

晩年、叔父は酒に酔うと誇らしげに語っていたのを思い出す。

ただその話を私に語ることがあったのは稀だった。叔父の亡くなった後、知ったのだが、例え酔っても身内以外には、決して叔父は語ることがなかったそうだ。きっと「まるで自分の手柄であるかのように」誤解されるのが嫌だったのだろう。叔父はかなりの照れ屋だったから、その性格もあったのだと思う。

本当に数回、私に話してくれたエピソード。思い返して

* * *

叔父の語りで紡ぐとおおよそこんな感じだ。

*

*

昭和53年。前年の仕事でヒットを出せたお陰で、この年は作詞の依頼が相次ぎ、てんてこ舞いだった記憶がある。新年が明けてからずっと、来る日も来る日も作詞に打ち込んでいた。その電話がかかってくるのは確か春先だった。夏にデビューする新人歌手に渡す歌詞の締め切りが迫っていたため、どんな内容にするか事務所にこもって考えていたときのことだ。

夜遅く、午前0時も近かった。傍らにある黒電話が鳴った。仕事柄、深夜に電話がかかってきて仕事を依頼される

のは、そう珍しいことではなかったので、このときもてつきりその手の話だとばかり思っていた。夜更けであり、仕事も手一杯だったので、無視してしまうこともできたが、作詞に煮詰まっていた気晴らしに、手持ちぶさただったペンを置いて受話器を取った。

「もしもし、先生。ごぶさたしています。Aです」

レコード会社でディレクターをしているA氏からだ。

昨年、売り出し中の若手演歌歌手の歌詞をA氏が私に依頼してきたことをきっかけに、A氏とは付き合いが始まった。演歌歌手のために書いた歌詞は、私としてはそれなりの手応えがあったのだが、結果としては思うようなヒットとはならなかった。

後日、〃お礼かたがたご挨拶を〃というので、A氏が私の

事務所を訪れて「今回は喜ばしい結果とはなりませんでしたが、次の機会にもまた先生にお願いしたいと思っていますので。そのときにはぜひよろしくお願いします」と、業界人には珍しく丁寧なねぎらいの言葉をかけてくれたのに気を良くして、「こちらこそぜひ。困ったらいつでも連絡ください」と私も快く返事をしていた。そんな折りだったので、A氏からの電話は作詞の依頼だと当然のように受け止めていた。

「Aさん、久しぶりだね。作詞の依頼かな？」

「その節は大変お世話になりました。ですが、あの、今回の依頼はちよつと違ってまして……。何というか、自分で言うのも何なんです、おかしなお願いだと思えます」

なんとも口幅ったいような、言い出しにくそうな雰囲気

「アジアの純真」に

まつわるエトセトラ。

奥田民生・井上陽水 vs 作詞

奥田民生プロデュースで結成されたユニットPUFFYの大ヒット曲「アジアの純真」。作曲は奥田民生、作詞は井上陽水である。発売は1996年とかなり前なのだが、ミリオンセラーだったこともあり、いまだに歌える人は多いだろう。ところがこの歌詞の内容を理解できている人はいるのだろうか。大いに疑問符がつくのは私だけではないはず（「どんな内容だっけ？」という人は、この章の最後に歌詞を掲載しているので確認してほしい）。

この支離滅裂ともいえる歌詞を眺めるたびに、もしかしたら「歌詞を書いた井上陽水ですら、何の意図もないままに仕上げてしまったのではないだろうか」といった疑念が浮かんでいたのだが、その疑念は、奥田民生の談話がまとめられた本『Fish or Die（角川文庫）』に

掲載されている「アジアの純真」発売当時のインタビューを読んでより濃厚となった。奥田民生と井上陽水の両名が作詞についてとても及び腰なコメントを残していることを目にしたからだ（以下、引用箇所はすべて『Fish or Die』から）。

（「これは歌だ」の制作話をしている中での奥田民生のコメント）

歌詞なんて作るの面倒くさい、歌にいちいち理由があるのかっていう反抗心が歌われているんですけどね。

（奥田民生との同時インタビューでの井上陽水の

コメント)

奥田君が、とにかく詞は少ない方が楽だっ
て聞いて、嬉しかった。もう支えられてる
っていうか、ぼくもこれでよかったんだ
というね(笑)。

僕は詞はああだこうだとそれらしい感
じに仕立て上げるわけですよ。で、時々、
それらしい感じに仕立て上げたなかで
ずいぶんほめられたりするところもある
んです。そうするとこつちも気になっ
て、「へえ、そんなにうまくいつてるわけ
？」ってね。で、歌っているときに、「あ、
ホントうまくいつてる」とか思いなが
ら歌うんですよ(笑)。それはあります
けど、書いているときはひたす

らそれらしく、早くそこから逃れたいっていうかね。で、提出すると、スタッフが「ちよつとこれ、あまりにいい加減すぎない?」、「やつばそうだよね」って言いながら書き直す(笑)。

(「自分の詞に入り込んでジーンとすることはないんですか?」というインタビュアーの質問に答えて)

あんまりないですね(奥田民生)
ないです(井上陽水)

…こんな風に、とにかくにも作詞については、エスケープしたい、努力を使いたくない、という2人の強

深夜1時、

密かに歌詞は放たれる。

星野源 RADIPEDIA(ラジペディア)の「今週のリリースリスト」リスト(未完)付き

テレビやラジオで歌詞をテーマにして語られる番組をあま
り見聞きしない。語られることがあっても、それはゲストと
して招いたミュージシャンのプロモーションの意味合いが大きく、
年代やジャンル、歌い手を問わず、さまざまな歌詞に視聴者
が触れられる番組というのは、なかなかない。そんな状況を
知ってか知らずか、古今の歌を取り上げ、歌詞の良さを思い
入れたっぷりにラジオで語るパーソナリティがいる。その名は
星野源という。

彼が週に1度、パーソナリティを担当する「RADIPEDIA
(ラジペディア／J-WAVE)」には、星野源の気に入ってい
る歌詞を紹介する「今週のリリーススト」という1コーナーが
ある。その選曲は、例えば、ちあきなおみ「喝采」、B'z「Z
ERO」、ももいろクローバーZ「サンタさん」などなど、昭

深夜1時、密かに歌詞は放たれる。

星野源 RADIPEDIA (ラジベディア) の「今週のリリース」リスト (未完) 付き

和歌謡、J-POP、アイドルソングといったジャンルを縦横無尽に行き来する。2011年1月の番組開始以来、このコーナーに登場した歌はすでに60曲を超えている。※

前述のように誰もが知っている歌だけでなく、それほど知られていない歌を取り上げることもあるのだが、そのいずれにも共通しているのが、彼のフィルターを通して、彼なりの解釈で、その歌詞の内容が語られるということ。

ときに歌詞への熱い思いがほとばしり過ぎてしまい、取り乱し、勢い余り、とつびな妄想も加えられて、その解釈があらぬ方向へとねじ曲がっていく……ということもなきにしもあらずだが、その半端ない逸脱ぶりもリスナーには楽しみのひとつ。そして楽しく聴かせるだけでなく、彼の解釈は、意外な気づきをリスナーにもたらしてくれることもある。

詞先 歌詞にまつわる物語

<http://p.booklog.jp/book/49733>

著者 : shisen

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/shisen/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/49733>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/49733>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

文学フリマ #bunfree 第14回に出展する『詞先（しせん）』です。ブースはカ24です。

『詞先』は“音楽を歌詞から楽しむ”というコンセプトでつくられた実験的な媒体です。今回は「歌詞にまつわる物語」として、さまざまな歌詞に関するエピソードをエッセイ的に紹介しています。

＜勝手にシンドバッド」の「アイデンティティ」は、どこにある？（阿久悠～桑田佳祐～山口一郎の系譜）＞

＜「アジアの純真」にまつわるエトセトラ。（奥田民生・井上陽水vs 作詞）＞

＜深夜1時、密かに歌詞は放たれる。（星野源ラジペディアの「今週のリリースリスト」リスト付き）＞

の3本を掲載。併せてエッセイ中に登場する曲の歌詞も掲載しています（約P150）。
300円（税込）で販売予定です。

現在（2012年5月2日）は、文学フリマのみでの販売となりますが、
今後、電子書籍・印刷物書籍ともに販売予定です。

もろもろの情報はツイッターアカウント @shisen_info で
ツイートしてきますので、お気軽にフォローください！